

# 日本語ドキドキ 体験交流活動集

Japanese  
through  
Real Activities



国際交流基金  
関西国際センター





## はじめに

この教材は、独立行政法人国際交流基金関西国際センター(The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai)で海外の大学生や高校生、成人を対象として行っている短期訪日研修から生まれました。短期で来日する学習者が望んでいるのは、それまで学んだ日本語を使って日本の人々とコミュニケーションすること、そして知識として知っている日本を自分の目で見て体験してみることです。そこで関西国際センターでは、地域や学校をリソースとした体験交流活動を研修の中心にすえ、活動を通じて総合的な日本語学習を行っています。本書では、それらの活動の中からホームステイやインタビュー、学校訪問など11種類の活動を取りあげ、①活動に必要な日本語の表現と行動のストラテジーを身につける、②現実の場面でタスクを遂行するために日本語を使う、③見聞きし体験したことを日本語で表現してまとめる、という一連の流れを教材化しました。体験交流活動を通じた日本語学習の利点は、活動がインプットの目的となり、アウトプットの内容となることで、「何のために何を学ぶのか」が学習者にわかりやすく、学習の動機付けを高めることにあります。また学習環境を教室外へと広げ個別の活動を行うことで、各人の日本語レベルに合わせた日本語運用体験が可能となります。

本書ではまた、活動をコーディネートする教師のために、交流先との交渉や事前準備、時間配分、フィードバックの方法などを具体的に提示し、体験交流活動型日本語学習のコースデザインの全体像を紹介しています。さらに、活動の準備として基本的な日本事情を楽しく紹介するために、写真や図を多用したPowerPointを作成し収録しています。短期研修だけでなく、来日間もない日本語学習者にも、教室から外へ飛び出して日本語を楽しむながら体験するための素材としてお使いいただければ幸いです。

この教材を作成するにあたっては、各国から関西国際センターを訪れた多くの研修参加者の協力を得ました。また、伝統文化体験については茶道の吉川景子先生、着付けの今井喜美子先生、書道の二宮千寿子先生にご指導いただきました。出版に際しては、株式会社凡人社の田中久光社長を始め、吉田豊氏、渡辺唯広氏、四塚洋子氏、大橋由希氏には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

執筆者一同

## 目次

Contents

日本語 **ドキドキ** 体験交流活動集  
Japanese through Real Activities

本書をお使いになる方へ ..... iv ~ ix

## 1 体験交流活動

「ウチ」と「ソト」をつなぐ授業のコツ ..... 2  
「1 体験交流活動」の使い方説明

## 地域を知る

- ① 地域オリエンテーリング ..... 5
- ② ご近所オリエンテーリング ..... 15
- ③ タウンページを作ろう ..... 23

## 出会う・話す・考える

- ④ 交流会 ..... 31
- ⑤ ホームステイ ..... 39
- ⑥ フィールドトリップ ..... 53
- ⑦ インタビュー ..... 63
- ⑧ 小学校訪問 ..... 75
- ⑨ 高校訪問 ..... 85
- ⑩ 工場見学 ..... 95

## 伝える

- ⑪ 発表会 ..... 105



## 2 体験交流活動を取り入れた コースデザイン

1 コースを始める -----	115
1: オリエンテーション	116
2: アイスブレイク	118
3: インタビューと学習相談	120
4: 自己目標を書く	122
5: 活動記録をつける	124
2 コースを終わる -----	127
1: 自己評価をする	128
2: これからの学習計画を立てる	129
3: 最後の学習相談	132
4: コース評価アンケート	134
3 コースデザイン例 -----	135
1: 5日間コース	135
2: 2週間コース	136
3: 6週間コース	137
4: 2ヶ月間コース	138

## 3 活動の前に Nipponガイド ※PowerPointもあります。

1 日本の地理 -----	140
2 日本の歴史 -----	142
3 方言(関西弁)-----	144
4 若者ことば (電子書籍にはありません)	
5 ホームステイガイド(PowerPoint版のみ)	
6 日本の教育(PowerPoint版「日本の高校生」「日本の小学生」) -----	148
7 アニメ・マンガ -----	150
8 日本の伝統芸能 -----	152
9 茶道(9~12 は、PowerPoint版はありません) -----	154
10 華道 -----	156
11 書道 -----	158
12 着付け -----	160

シラバス -----	162
------------	-----

## 本書をお使いになる方へ

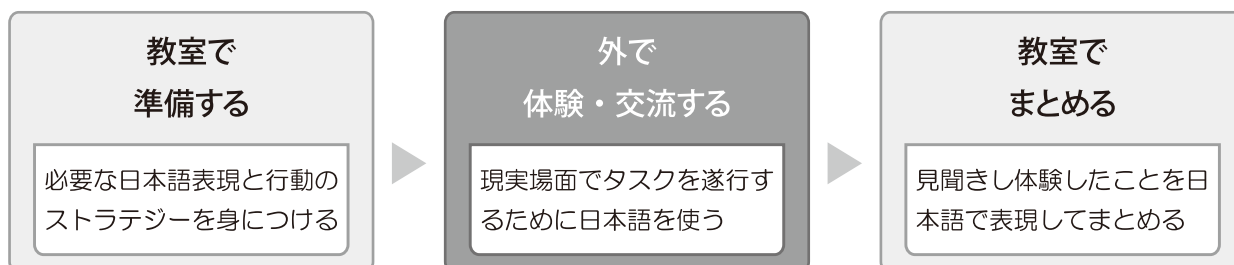
本書は、学習者が教室の外に出て、あるいは外にあるリソースを活用しながら日本語を学習するための活動例を紹介したものです。短期で日本に滞在する留学生や語学研修生が、実際の日本語使用場面に飛び出し、現実にくつかり、試行錯誤する中で日本語を伸ばしていくための体験交流の場を設定しました。また、学習者を単に外に送り出すのではなく、活動を成功に導くために必要な準備とフォロー、そしてフィードバックのための教師用ノウハウも盛り込みました。

### 対象

短期間日本に滞在して日本語を学ぶ学習者を対象としています。短期のコースでは、さまざまな日本語レベルの学習者が同じクラスに混在することも珍しくありませんが、本書は、初級から中級まで幅広いレベルで使用できるよう配慮しました。

### 本書の特徴：体験交流活動型日本語学習

体験交流活動型日本語学習では、人との関わりの中で実際に行動してみることで日本語を学びます。以下のような一連の流れを持った体験交流活動を通して、総合的な日本語運用の場を作ります。



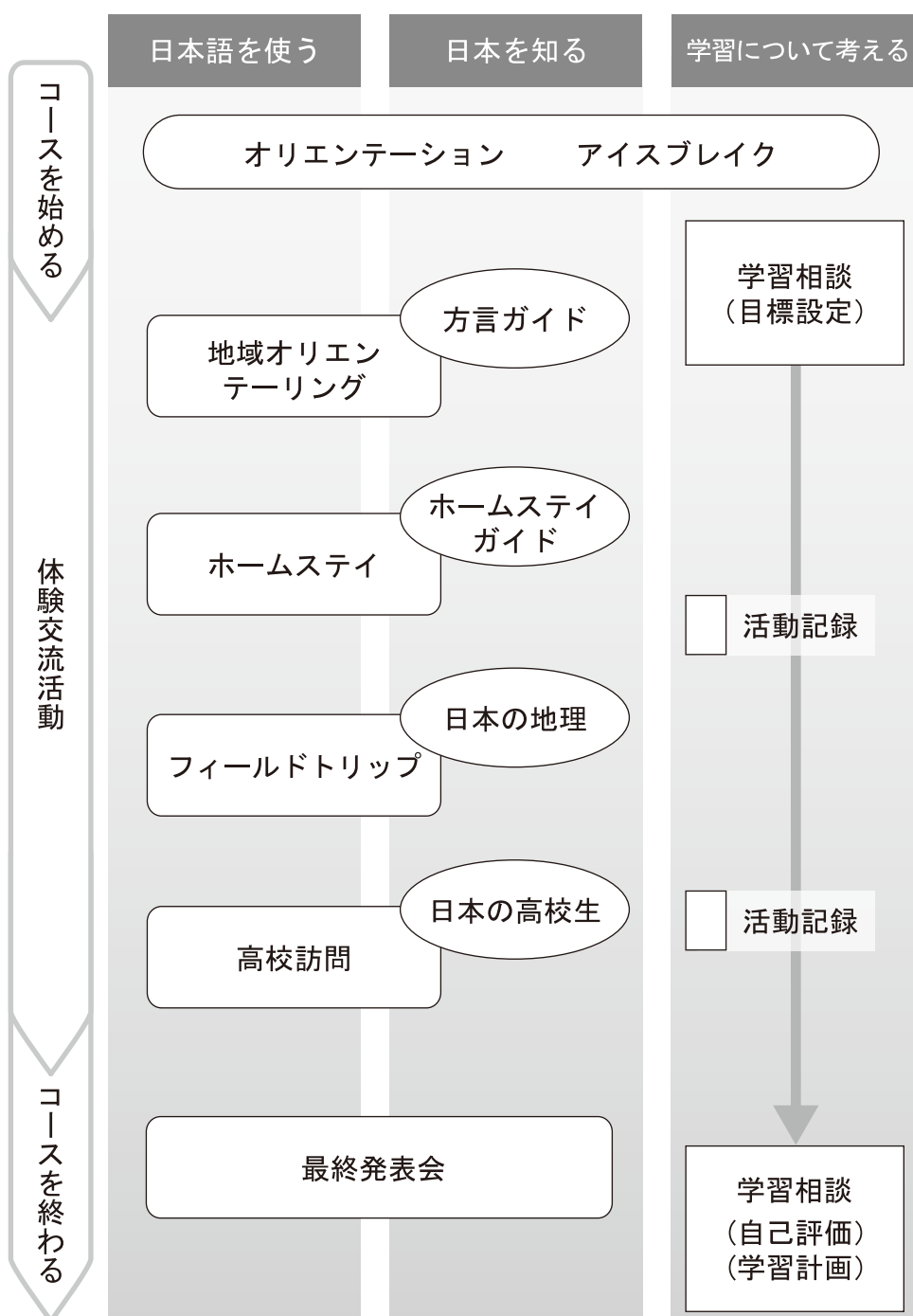
体験交流活動型日本語学習には、次のような利点があります。

- ①「何をするために、何を学ぶのか」が明確になることにより、学習者の動機付けが高まり、主体的な学習が可能となる。
- ②学習環境を教室外に広げ、現実場面でタスクを遂行することによって、日本語環境における行動力が身につく。
- ③各自が特性を活かしながらタスクを遂行する中で、個々の日本語レベルに合わせた日本語運用体験ができるため、達成感が得られる。
- ④目標言語の母語話者と接し、その経験を教室でまとめることで、自分の日本語能力や日本語学習を振り返り、意識化することができる。

## 本書の活動を使ったコースの流れ

本書は、外へ出かけて日本語を使ってみるための「体験交流活動」、そのために必要な知識を紹介する「Nipponガイド」、そしてコース開始時のオリエンテーションやアイスブレイク、学習相談など体験交流活動を中心にコースを運営するためのアイデアを盛り込んだ「コースデザイン」の3部から構成されています。各活動を組み合わせることによって、さまざまなコースを設定することができます。

### コースの流れ(例)



## 本書の構成

### 1 体験交流活動

第1部は、準備、活動、まとめまでの一連の流れを持った11種類の体験交流活動(以下、活動)を紹介しています。各課は、活動を運営するための教師用のページと、学習者向けの教材ページから構成されています。各活動は独立しているので、既存のコースにいくつかの活動を選んで取り込むことも可能です。

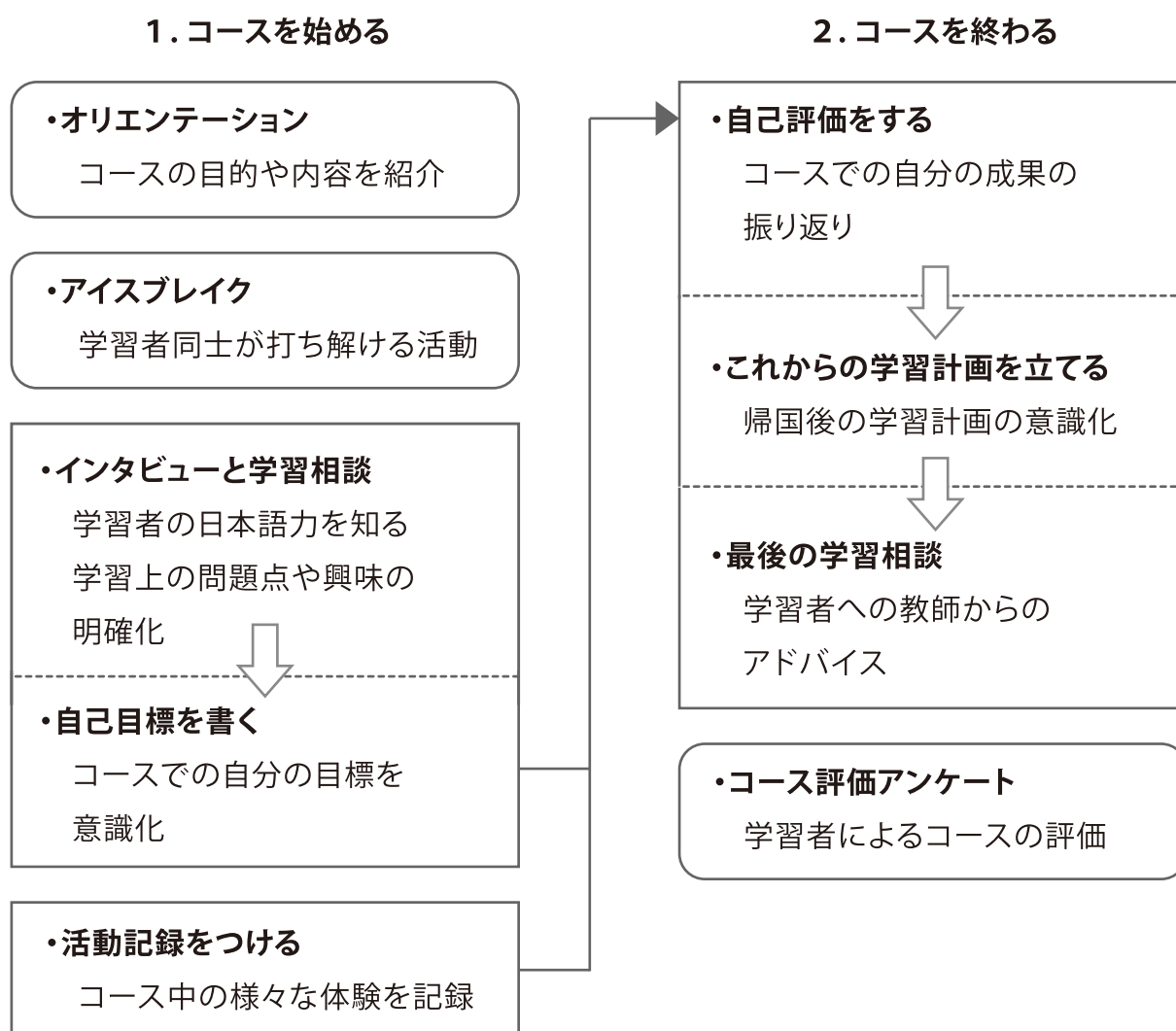
各課の内容	対象												
<b>フロントページ</b> 活動の概要と進め方、準備やまとめの所要時間(学習者のレベルによって調整)など	教師用												
<b>① 準備</b> 会話練習、クイズや日本人への質問の作成、インタビュー練習など、活動の前に行う準備のための教材やワークシート	学習者用												
<b>② ことば</b> 「準備」と「まとめ」に必要な語彙・表現	学習者用												
<b>③ まとめ</b> 話し合い、グループ発表、レポート作成など、活動後に体験や感想をまとめるためのワークシートと報告例	学習者用												
<b>④ 活動のコツ</b> 活動を行うときの留意点やバリエーションを紹介。その他、交流相手との連絡のための書式や実際の例など	教師用												
<b>&lt;各課のタイトル&gt;</b> <table><tbody><tr><td>1. 地域オリエンテーリング</td><td>7. インタビュー</td></tr><tr><td>2. ご近所オリエンテーリング</td><td>8. 小学校訪問</td></tr><tr><td>3. タウンページを作ろう</td><td>9. 高校訪問</td></tr><tr><td>4. 交流会</td><td>10. 工場見学</td></tr><tr><td>5. ホームステイ</td><td>11. 発表会</td></tr><tr><td>6. フィールドトリップ</td><td></td></tr></tbody></table>		1. 地域オリエンテーリング	7. インタビュー	2. ご近所オリエンテーリング	8. 小学校訪問	3. タウンページを作ろう	9. 高校訪問	4. 交流会	10. 工場見学	5. ホームステイ	11. 発表会	6. フィールドトリップ	
1. 地域オリエンテーリング	7. インタビュー												
2. ご近所オリエンテーリング	8. 小学校訪問												
3. タウンページを作ろう	9. 高校訪問												
4. 交流会	10. 工場見学												
5. ホームステイ	11. 発表会												
6. フィールドトリップ													



## 2 コースデザイン(コース運営・目標設定・評価)

第2部では、体験交流活動を中心としたコースデザインを紹介します。活動を中心としたコースでは、どのように評価を行うかが問題となります。ここでは、学習者自らが学習目標を立て、日々の活動を記録し、自己評価を行い、教師がそれを支援するためのノウハウを紹介します。

### コース開始時と終了時の流れ



※体験交流活動、コースデザインに関するお問い合わせ、ご相談がございましたら、  
jpf-kansai@jpf.go.jpまでお寄せください。

### 3. コースデザイン例

5日間から2ヶ月までの期間別に体験・交流活動を組み込んださまざまなタイプのコースのスケジュール例を紹介しています。

- 5日間コース
- 2週間コース
- 6週間コース
- 2ヶ月間コース

### 3 Nippon ガイド

日本のさまざまな側面を楽しく紹介するためのガイド用資料です。第1部の各活動の準備として適宜使用することができます。また、短期コースでよく行われる伝統文化体験のためのガイドも加えました。クイズや写真を使ったPowerPoint版もあり、併せて使えるようになっています。





**\* PowerPointデータについて**

PowerPointデータはスライドショー形式（編集機能をもたない、閲覧するための形式）で保存されています。ファイルを開くとスライドショーが始まりますので、そのままお使い下さい。

掲載されているスライドの内容を無断で加工することは法律により禁じられています。画像、イラスト、文言を無断で改変（変型・拡大・縮小・色調整など）して利用すると著作権の侵害になります。掲載されている画像の著作権は画像提供元にあり、本書はこの提供元から許可を得て使用しています。

